

白馬八方尾根のリーゼンスラロームコースは、70 年以上の歴史をもつ有名なコースです。同時に、同じ名で知られるこの地域の有名なスキー競技大会の、開催場のことをも指します。

このリーゼンスラロームコースの開発は、1945 年に遡ります。創設者である福岡孝行（1913 年～1981 年）氏は、スキー愛好家であるとともに法政大学のドイツ語と体育理論の元教授でしたが、オーストリアにあるようなダウンヒルやスラロームの長距離スキーコースを開設する自らの夢を追いました。

福岡氏は学生時代、学校の陸上競技部に所属して優秀な成績を収めていましたが、体力維持トレーニングとして、スキーや登山を取り入れていました。陸上競技を断念した後、彼の関心はもっぱらスキーと登山に向けられました。

福岡氏はスキーのさまざまな技術や方法を研究し、自らの経験やドイツ語の文献を基にして、自身の著作物を出版しました。第二次世界大戦（1939 年～1945 年）勃発直前に細野（現在の白馬八方尾根）に移り住んだ後に、彼は思いがけず、ダウンヒルやスラロームのスキーコースを開発するのに適した場所を見つけました。人気スポーツとしてのスキーの将来性を説明することで地元自治体を説得した後、リーゼンスラロームコースの建設作業が始まり、1947 年には第 1 回八方尾根リーゼンスラローム大会が開催されました。

リフトやロープウェイはまだなかったので、標高差が 1030m ある 4500m コースの最上部にたどり着くには、スキーヤーたちは卓越した登山スキルが必要でした。これは、日本におけるスキーの黎明期であった 20 世紀前半にはスキーと登山とが深く関連していたことを如実に物語るものです。山の麓とリーゼンスラロームとを繋げる最初のリフトとなる名木山リフトの操業が準備されるまでには、その後 7 年かかりました。

1947 年の第 1 回八方尾根リーゼンスラローム大会以来、トップスキーヤーたちとわずかな秒差でゴールした参加者たちは、黒、青、赤のいずれかの楕円バッジで表彰されます。大会は 2019 年で 73 周年を迎え、この地域の年中行事として、地元民からも世界のスキーヤーたちからも愛され続けています。